

リハビリテーション学科 作業療法学専攻 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	26	生理学Ⅰ（神経・運動・感覚）
1年	38	作業療法概論
2年	65	神経学
3年	114	保健医療福祉連携論

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-BSF-04			
	●	●		●					
科目名	生理学 I (神経・運動・感覚)				単位 認定者	鈴木 裕一		授業内課題 (小テスト)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	
	O T	必修	1 年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。本講義では、人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に講義する。								
到達目標	1. 人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に説明できる。								
学修者への 期待等	1. 理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣にとりくむこと。 2. 臨床医学(内科学など)を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。								
回	授業計画				準備学修				
1	人体の仕組み				教科書(1章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
2	骨格系の構造と働き				教科書(5章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
3	骨格筋の構造と機能1(収縮メカニズム)				教科書(6章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
4	骨格筋の構造と機能2(収縮の制御)				教科書(6章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
5	神経系1(基本的特性、神経細胞)				教科書(6章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
6	神経系2(活動電位)				教科書(7章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
7	神経系3(中枢神経系の構造と機能)				教科書(7章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
8	神経系4(中枢神経系を保護する組織)				教科書(7章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
9	神経系5(末梢神経系の構造と機能)				教科書(7章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
10	末梢神経系1(末梢神経系、脳神経)				教科書(7章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
11	末梢神経系2(自律神経系の構造と働き)				教科書(7章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
12	特殊感覚1(視覚)				教科書(8章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
13	特殊感覚2(聴覚・平衡覚)				教科書(8章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
14	特殊感覚3(嗅覚・味覚)				教科書(8章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
15	脳の働き				教科書(8章)の関連した項目に目を通す(概ね30分)				
教科書	「人体の構造と機能」エレイN. マリーブ著、第4版、医学書院								
参考文献									
備考	1~5回目は遠隔授業に変更し、P T・O T異なる時間帯で配信。6回目以降はP T・O T合同対面授業。授業内課題(小テスト)は、採点し次の授業で返却する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-BOT-01				
	●		●							
科目名	作業療法概論				単位認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法について、我が国および諸外国における作業療法の歴史の変遷を紐解きながら、その独自性と専門性について考えていく。また、さまざまな事例報告に触れる機会を通して、作業療法の知識と技術が臨床現場でどのように発揮されているのかを学ぶとともに、領域別の特色や、領域の枠にとらわれない作業療法の普遍性について理解を深めていく。									
到達目標	作業療法とはなにか?説明することができる。作業療法の目的および手段の多様性について言語化することができる。									
学修者への期待等	作業科学と同様に、作業療法士になるための基盤となる学問です。積極的な参加態度を期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	作業療法の定義、倫理綱領 (講義・グループワーク)				専用のノートを準備すること			齋藤 佑樹		
2	作業療法の歴史1. 道徳療法 (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
3	作業療法の歴史2. アーツ&クラフツ運動 (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
4	作業療法の歴史3. プラグマティズム (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
5	作業療法の歴史4. 日本における作業療法の変遷 (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
6	理学療法の専門性を知る				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			山田 英司		
7	作業療法を観る1. あきらめていた病前の趣味を再開				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
8	作業療法を観る2. 認知症者に対する社会資源の活用				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
9	事例報告から作業療法プロセスを考える (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
10	事例報告から作業療法の普遍性を考える (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
11	事例報告から多職種連携を考える (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
12	作業療法の魅力を言語化する① 計画立案 (講義・グループワーク)				講義の内容をノートにまとめること (30分程度)			齋藤 佑樹		
13	作業療法の魅力を言語化する② 発表準備 (グループワーク)				講義外にもグループで計画的に準備をすすめること			齋藤 佑樹		
14	作業療法の魅力を言語化する③ 発表会 (前半グループ)				講義外にもグループで計画的に準備をすすめること			齋藤 佑樹		
15	作業療法の魅力を言語化する④ 発表会 (後半グループ)				講義外にもグループで計画的に準備をすすめること			齋藤 佑樹		
教科書	「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方」 齋藤佑樹 編、医学書院									
参考文献	適宜紹介します									
備考	授業内で使用する資料は、毎回前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。授業内課題(第14・15回)のフィードバックは、当日、授業内で行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤：総合病院で主に身体障害領域の作業療法を長年実施してきた。また、作業療法の概論的知識を網羅した本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。これらの経験を活かし、歴史の変遷や潮流も踏まえながら作業療法の構造について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-05			
		●		●					
科目名	神経学				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
	O T	必修	2年			授業形態	講義	授業時間数	60 時間
								授業回数	30 回
授業の概要	本講義では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患(一部損傷含む)を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士作業療法士に必要な神経学的診察ができるように、授業では動画供覧、実演する。 ・神経症候の基礎と神経・筋疾患の臨床を理解でき、臨床実習では実際の症例で確認できるようになる。 ・疾患の理解に必要な画像診断や検査について説明できるようになる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・神経・筋疾患は理学療法・作業療法の対象となる疾患も多い。しっかり予習・復習をして授業に臨むこと ・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後はノートやLMS資料への書き込み等を整理し復習に重点を置くこと。 								
回	授業計画				準備学修				
1	神経系の解剖と機能 ① 神経系総論、神経組織				教科書p14~31「中枢神経系の解剖と機能」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
2	神経系の解剖と機能 ② 中枢神経系				教科書p25-26、56-57「末梢神経の構造」と関連する分野を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
3	神経学的診断：脳神経の診察の実際				教科書p35-50「神経学的診断と評価」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
4	神経学的検査法(1) 画像診断				教科書p51-56「神経学的検査法：画像診断」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
5	神経学的検査法(2) 神経生理学的検査				教科書p56-67「神経学的検査法：神経生理学的検査(他)」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
6	神経症候学(1) 運動麻痺				教科書p79-88「運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
7	神経症候学(2) 錐体路徴候：痙縮(痙性麻痺)				教科書p79-88「運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
8	神経症候学(3) 錐体外路徴候：固縮、不随意運動				教科書p89-93「錐体外路徴候、不随意運動」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
9	神経症候学(4) 運動失調、感覚障害				教科書p94-98「運動失調」、p99-106「感覚障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
10	高次脳機能障害(1) 総論、失語症				教科書p107-119「高次脳機能障害：総論/失語症」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
11	高次脳機能障害(2) 失認証、失行症				教科書p120-136「高次脳機能障害：失認/失行」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
12	記憶・知能の障害と認知症				教科書p137-142「高次脳機能障害：記憶障害/」 p204-223「認知症」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
13	構音障害・嚥下障害				教科書p152-156、157-163「構音障害」「嚥下障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
14	排尿と障害				教科書p351-355「排尿障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)				
15	神経学前期 総括				1-14回の授業資料の整理(概ね1時間程度)				

回	授業計画	準備学修
16	脳血管疾患(1) 病態、症候学、機能予後	教科書p173-182「IV神経疾患各論 脳血管障害」前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)
17	脳血管疾患(2) 診断、治療、リハビリテーション	教科書p173-182「IV神経疾患各論 脳血管障害」前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)
18	脳損傷 外傷性脳損傷の受傷機転、症候学の特異性を学ぶ。	教科書p231-237「外傷性脳損傷(軸索障害を含む)」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
19	脳腫瘍 脳腫瘍の特殊性と予後	教科書p224-230「脳腫瘍」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
20	脊髄損傷(1) 神経学的診断(機能残存高位レベル)	教科書p238-239「脊髄疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
21	脊髄損傷(2) リハビリテーション	教科書p238-239「脊髄疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
22	末梢神経障害(1) 末梢神経損傷	教科書p275-283「末梢神経障害」前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)
23	末梢神経障害(2) 末梢性ニューロパチー	教科書p275-283「末梢神経障害」後半を予習・復習する。(概ね1時間程度)
24	変性疾患(1) 脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、多発性硬化症について学ぶ。	教科書p253-261「変性疾患・(錐体外路系除く)、脱髄疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
25	変性疾患(2) Parkinson病の病態、治療について学ぶ。	教科書p262-274「錐体外路の変性疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
26	筋疾患筋ジストロフィー、多発性筋炎、筋無力症について学ぶ。	教科書p288-301「筋疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
27	感染性疾患：感染性神経疾患の病因、症状、検査、診断・治療法、予後を学ぶ。	教科書p302-310「感染性疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
28	中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患	教科書p311-315「中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
29	小児神経疾患	教科書p316-336「小児神経疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)
30	神経学 後期 総括	16-29回の授業資料の整理・復習(概ね1時間程度)
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学」川平和美編、医学書院	
参考文献	「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭・斎藤佳雄著、坂井文彦改訂 南山堂、授業中に紹介	
備考	1～5回目は遠隔授業に変更し、各専攻各クラスとも異なる時間帯で配信。 6回目以降はPT・OT合同対面授業。 授業資料等はLMS上に張り付ける。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CBO-03			
		●	●	●	●				
科目名	保健医療福祉連携論				単位認定者	須藤 あゆみ		授業内課題 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	3年			授業時間数	20 時間		
				授業形態	講義	授業回数	10 回		
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。								
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。								
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	多職種連携とは				配付資料の復習をすること (概ね30分)			佐直信彦 須藤あゆみ 戸田祐子 大橋孝子 荒牧隼浩 森永雄	
2	他職種の専門性を知る[1] (グループワーク)				発表スライドや動画の作成 (概ね150分)			須藤 あゆみ 戸田 祐子 大橋 孝子 荒牧 隼浩 森永 雄	
3	他職種の専門性を知る[2] (グループワーク/解説)								
4	他職種の専門性を知る[3] (発表準備)								
5	他職種の専門性を知る[4] (発表)								
6	多職種連携理念と方法				配付資料の復習をすること (概ね30分)				
7	事例検討[1] (グループワーク)				事例検討に必要な項目の予習 (概ね30分)				
8	事例検討[2] (グループワーク/解説)				発表スライドや動画の作成 (概ね150分)				
9	事例検討[3] (発表準備)								
10	事例検討[4] (発表)								
教科書	配付資料								
参考文献	「信念対立説明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく」、京極真、中央法規								
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永：保健・医療・福祉領域の関連職種との連携において、十分な実務経験を有す